

地教連ニュース

2000.4.17

事務局

エルムアカデミー

〒142-0053 品川区中延 5-6-14-2 f

03-3784-5676 Fax03-3784-5609

地教連総会日程決まる

日時 2000年5月21日(日) 総会:午後1時～4時まで
交流会:午後5時～ (交流会費のみ¥2000)

場所 文化学習協同センター(吉祥寺駅下車徒歩15分)

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 1-14-3

Tel 0422-47-8706 Fax 0422-47-8709

議題

塾や教育をめぐる情勢の討論

－居場所、総合学習、NPOなどを深める

99年1月に行われた地教連新春学習会での佐藤一子さんの講演「地教連とNPO」を素材に、塾とNPO、地域、行政など各地で取り組まれている取り組みを報告してもらいながら、今後の塾経営の展望を考えていきたいと思っています。各塾とも経営的には厳しい環境が続いています。その転機になるような、議論を展開したいと思います。

また、地教連塾の共通な特徴は、子どもたちが「居場所」として、「心のよりどころ」に各塾をしている点です。この「居場所」にも焦点をあて、教育論議そしてを深めていきたいと思っています

99年度総括と00年度方針

99年度決算と00年度決算

から までに議案書や佐藤一子さんの講演の起こし等は、5月初旬までに会員に送付したいと思っています。

交流会では

経営をめぐる厳しい状況はお互いにわかっています。知恵を出していきましょう。
(募集関係の資料やピラなどありましたら、ご持参下さい)

ぜひ、ふるってご参加下さい。その際、会費の納入も受付けますので、よろしくお願ひします。

神奈川ブロック会議 久しぶりの開催

3月8日(水)横浜市上大岡において、橋倉氏(上大岡学習センター)、橘氏(あらぐさ教室)、平塚氏(大東塾)、初参加の山田氏(退職教員でインターネットの塾を開設)を向かえ、4名で神奈川ブロック会議を行いました。議題は 神奈川ブロックの活動の反省 生徒募集の仕方や塾運営全般の二つでした。

特に についてはそれぞれの事情を抱えているため、意見を出しても、どれだけ実践ができるのかという不安があり、重苦しい雰囲気での会議になりました。各塾とも生徒募集はとても深刻な事態です。

だから、このようなときこそお互いの塾が協力をしあって、この局面を打開していこうと意思統一をはかり、研修を兼ねて東京国際ブックフェアで情報収集をすると予定です。4/23(日)ですので、興味ある方、ぜひ一緒に参加しましょう。連絡先は大東塾平塚まで(0462-61-1437)

東京国際ブックフェアに研修で行きませんか?

4/20(木)～23(日)に臨海副都心にある、東京ビックサイトで行われます。国内出版界最大のイベントで、世界25カ国・地域から500社が出展し、学習書・教育ソフトフェアなど8つの専門フェアも開催されます。

アクセスは、新橋から「ゆりかもめ」か新木場から「臨海副都心線」で共に国際展示場前駅下車、徒歩3分です。

神奈川ブロック会議に初参加した山田さん(元教師)からお誘い

北海道の牧場で働きたい方、のぞきたい方、興味のある方、ご連絡をお待ちしております。山田さんの娘さんが北海道の帯広の近くで牧場をやっています。

連絡先はあらぐさ教室・橘さんまで(044-751-0241)

子育て文化協同「学力分科会」に参加して

のむぎ 西田 匡臣さん (S t A F F)

私は、この分科会で今まで自分が『のむぎ』で学んできたことを報告しました。報告が終わり参加した人達から『のむぎ』での学びはわかるけど将来はどうするの」という質問がありました。これはこの分科会に限らず他でも必ずといっていいほど聞かれます。私は、この問いに「なぜ大人たちは、すぐにその質問をしてくれるのか」と思っていました。もちろん考えていないわけではありません。「将来のことはまだいいとか」「今がよければいい」とも思っています。大人が子どもを心配する気持ちもよくわかります。

でも、特に今、大事なことは本当に学ぶということはどういうことかをみんなで考える必要があると思います。その中で将来、自分がどう生きていくのかが見つかっていく気がします。

このような話が、この日、参加した人たち（親、先生）と話をしたことで、もう一度本当に学ぶということはどういうことかを自分も見直すことが出来て良かったと思います。

カンパネルラの定期購読を よろしく！！

自分らしく働きたい、いろんな生き方に出会いたい、そんな思いを胸に若者達が企画・編集する「新しい生き方・つながり発見マガジン」をつくらう、とはじまった『カンパネルラ』。最初は NPO 文化学習協同ネットワークにかかわる約 10 人で昨年の 10 月に見切り発進したこの雑誌が、その後、朝日新聞、毎日新聞、NHK とさまざまなメディアで取り上げられ、現在では編集委員 50 人を越すまでになりました。編集委員は学生を中心としながらも、浪人生、フリーター、定時制高校生、主婦、社会人、また障害も持ちながらも電子メールで参加する若者など多様で、その地域性も上は北海道室蘭市、秋田、遠く海外ではフランス、スイスとバラエティーにとんでいます。

季刊で年に 4 回の発行を目指し、編集会議は月に 2 回から 3 回ひらかれます。編集会議は特集のコンセプト、取材先の設定からはじまり、編集委員は執筆、レイアウト、校正さらに販売や発送作業まですべての作業に関わっています。最近では編集委員の技量も向上し『カンパネルラ』も号を重ねるごとに読みやすく、分かりやすい雑誌に成長してきていると自負しています。まだまだ「これから」の雑誌ではありますが、一人でも多くの方に手にとっていただき、「新しい生き方を探す」- そんな若者たちの活動を支えていただければと思います。

お問い合わせ先 季刊『カンパネルラ』編集委員会事務局

〒 181-0013 東京都三鷹市下連雀 1-14-3 文化学習協同センター内

Tel 0422-47-8706 Fax 0422-47-8709

SCHOOL TO WORK 5/13 に第 1 回講座開催

高校生や大学生など、いまの青年達の多くが悩んでいるのは「何のために働くのか」「どんな仕事したいのか」などという進路問題です。この進路問題を解決する方向は学校では見だしにくい状況にあります。高校での進路指導はイコール進学指導、大学での進路指導はイコール就職指導と「生き方と仕事や学問」を結び付けて考えられていません。

この SCHOOL TO WORK はみたかの佐藤さんやエルムの矢沢さん、法政大の平塚さん、都立大の桐島さんらが中心となり、新しい進路指導の模索として、ワークショップも取り入れながら、青年達に様々な生き方を提示していきたいと考えています。

地教連参加の団体には割引料金も検討中ですので、ぜひ、進路に悩む高校生やOB たちにこの企画を広めてください。詳しくは同封のチラシをご参照下さい。

連絡先は 文化学習協同センター 佐藤まで

Tel 0422-47-8706 Fax 0422-47-8709